

付 議 第 5 号

平成 27 年度高知県一般会計補正予算に係る意見聴取に関する議案

平成 27 年 9 月高知県議会定例会提出予定の別紙議案に係る地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 29 条の規定に基づく高知県知事からの意見聴取に対し、適当であると認めることについて、高知県教育委員会事務委任規則（平成 4 年高知県教育委員会規則第 1 号）第 2 条第 5 号の規定により議決を求めます。

高知県教育委員会事務委任規則

第 2 条 教育委員会は、次に掲げる事務を除き、その権限に属する事務を教育長に委任する。

(5) 教育予算その他議会の議決を経るべき事件の議案について意見を述べること。

平成 27 年度 9 月補正予算総括表

教育委員会（一般会計）

（単位：千円）

課 名	既計上予算額	補正見込額	左 の 財 源 内 訳		備 考
			特定財源	一般財源	
生涯学習課	1,727,445	6,171		6,171	
スポーツ健康教育課	1,037,943	4,510		4,510	
計	98,205,835	10,681		10,681	

(一般会計)

債務負担行為で翌年度以降にわたるものについての前年度末までの支出額
又は支出額の見込み及び当該年度以降の支出予定額等の補正に関する調書
追 加

(単位千円)

課 名	事 項	限 度 額	前年度末までの 支出(見込)額		当該年度以降の 支出予定額		左の財源内訳			一般財源
			期 間	金 額	期 間	金 額	特定財源			
							国庫支出金	地方債	その他	
小学 中 校	学習問題改訂委託料	6,380			平成27年度 ～平成28年度	6,380				6,380
ス ポ ー ツ 健 康	春野総合運動公園飛込み練習場 実施設計委託料	5,085			平成27年度 ～平成28年度	5,085				5,085

教育委員会事務局 平成27年度9月補正予算案の概要

(単位:千円)

連番	課名	事業名	内 容	補正見込額			備考	
				金額	左の財源内訳			
					(一)	(国)		その他
①	生涯学習課	生涯学習推進費	若者の学び直しと自立支援事業の拡充 地理的、経済的な事情により若者サポートステーションへの通所が困難な若者等に対するアウトリーチ型支援の拡充 ○高知黒潮若者サポートステーション事業実施委託 ・サテライトの開所日数、開所時間の増 ・サテライト遠隔地における出張相談会の実施 ・訪問、送迎支援の拡充	6,171	6,171			
②	スポーツ健康教育課	競技力向上総合対策事業費	春野総合運動公園飛込み練習場実施設計等委託 飛込競技の練習場を春野総合運動公園水泳場に整備するための実施設計 ・地質調査委託 ・敷地造成実施設計委託	4,510	4,510			
平成27年度9月補正予算合計				10,681	10,681	0	0	
③	小中学校課	学力向上推進対策費	単元テスト(算数・数学)のリニューアル ○学習問題改訂委託料 ・単元テストに思考力等を問う問題を組み入れる	6,380	6,380			
④	スポーツ健康教育課	競技力向上総合対策事業費	春野総合運動公園飛込み練習場実施設計委託 飛込競技の練習場を春野総合運動公園水泳場に整備するための実施設計 ・練習場施設建設実施設計委託	5,085	5,085			
債務負担行為9月補正合計				11,465	11,465	0	0	

若者の学びなおしと自立支援事業【拡充】

生涯学習課

6,171千円 (一) 6,171千円

事業概要

いわゆるニートや引きこもりの若者の社会的自立を支援する機関である「若者サポートステーション」に、より多くの若者をつなげていくために、出張相談会や家庭訪問などの「アウトリーチ型の就学・就労支援」を拡充する

事業目標

- 若者サポートステーションへの新規登録者数 444人/年(H26実績 239人/年)
- 進路決定率(累積) 52.2%

期待される効果

これまで若者サポートステーションの支援に結びついていなかったニートや引きこもり状態にある若者の社会的自立が促進される

現状

◆若者サポートステーションによる支援

- 【対象者】 15～39歳の自立に困難を抱える若者
- 【支援内容】 ○カウンセラーによる心理面談、訪問支援、体験活動
○就労支援につながる各種セミナー、職場見学、職場体験
○復学や進学、高卒資格取得などを旨とした学習支援 など
- 【設置場所】〔常設〕高知市・南国市・四万十市〔非常設〕安芸市・須崎市
- 【支援実績】登録者数1,669人、進路決定者数863人(H19～27.7月末までの累積)

◆若者支援に係るH27からの重点的な取組

- 若者支援に関わる関係者等のスキルアップのための研修を実施
- 県立高校5校と連携し、若者サポートステーションによる困難を抱える在校生への早期支援を開始

課題

◆これまでの取組の中で、より明確化した課題

近隣に若者サポートステーション等の支援機関がない地域では、**地理的・経済的な状況から支援機関への通所が困難**

若者の身近な場所での支援の充実が必要

不登校や引きこもりの若者は、**自ら若者サポートステーションに出向くこと自体が難しいケースが多い**

地域で孤立し、支援に結びついていない若者への個別的な支援が必要

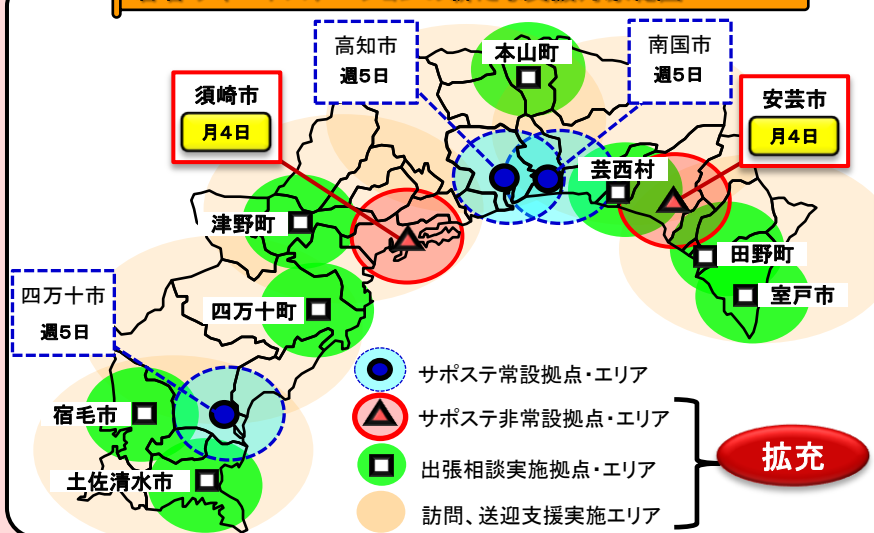
(状況の変化)

- ◆生活困窮者自立支援事業のH27本格実施に伴い、若者の就労に関する相談の出口としての支援が求められてきている。
- ◆雇用情勢が好転しつつある中、一人でも多くの若者を社会に送り出すことが求められてきている。

実施内容

支援の緊急性が高い若者に対する積極的・速やかな支援の強化！

若者サポートステーションの新たな支援対象範囲 (イメージ)



具体的な取組

サテライトの拡充



- 開所日数や時間の増 **【サテライトの機能強化】**
・安芸市サテライト 月2日13:00～17:00 ⇒月4日 10:00～17:00
・須崎市サテライト 月4日13:00～17:00 ⇒月4日 10:00～17:00
- 支援内容の拡充
・臨床心理士による心理面談、就学支援員による学習支援、各種セミナー実施等

出張相談会



- 出張相談会の開催 **【拠点・サテライトがない地域での支援】**
・各市町村の教育支援センター、福祉事務所、社会福祉協議会などの関係機関に若者サポートステーションが出向き、相談会を開催
・また、必要に応じて各種セミナー等を開催
(月1～4回程度:室戸市、田野町、芸西村、本山町、津野町、四万十町、宿毛市、土佐清水市)

家庭訪問



- 家庭訪問等の強化 **【地域で孤立化している若者への支援】**
・各サポートステーションや出張相談会場への来所が困難な若者に対して、支援員が若者の自宅等に訪問し、個別相談や若者サポートステーションへの送迎を実施

H27 9月補正予算：4,510千円（－）4,510千円
（債務負担 5,085千円（－）5,085千円）

事業概要

◆全国トップレベルの競技成績を有する飛込競技の拠点として、春野総合運動公園水泳場に、技術を高めるための陸上練習を効果的に行える練習場を整備する。

期待される効果

◆年間を通じて効果的な練習を実施することができることから、質の高い練習を天候に関わらず、安全に実施することが可能になり、オリンピックの出場など本県からトップレベルの選手を目指すことができ、競技力向上や競技人口の増加につながる。

現状・課題

◆現状

春野運動公園水泳場の一部に練習器具を設置し、飛び込む技術を高めるための陸上練習として利用している。設備が十分でないことや、屋外に設置しているため、練習内容が制限されることに加え、天候等により練習できない場合もある。

◇競技人口 一般 1名 高校生 1名 中学生 2名 小学生 17名 合計 21名

◇指導者 2名（内1名は世界ジュニア選手権ヘッドコーチ）

◆平成25・26年競技成績

平成26年 世界ジュニア選手権出場1名、国民体育大会 入賞3名
日本高校選手権 3位、全国中学校体育大会 2位、JOCカップ 優勝1名 2位1名 入賞3名
平成25年 マレーシアオープン 優勝、東アジア大会 5位、国民体育大会 入賞2名
全国高校総体 入賞1名、全国中学校体育大会 優勝1名 入賞3名、JOCカップ 優勝1名 2位3名

◆課題

○県内トップ選手が十分な練習ができないため、技術の向上に影響がある。
○屋外に練習器具を設置しているため、特に冬場は練習が制限されたり、体調管理が難しい。
○トップ選手が良い環境を求め、県外へ流出している。

事業目標

- ◆東京オリンピックをはじめ、国際大会に日本代表選手として出場する選手の輩出
- ◆国内大会で活躍する選手の育成
- ◆競技人口の増加



<オリンピック出場に向けたスケジュール(予定)>

- 各種国内大会(2017)
2018大会に向けた選考大会の実施
- 世界選手権選考会(2018)
→世界選手権(2019.7) *オリンピック選考大会
- アジアカップ国内選考会(2019.6)
→アジアカップ(2019.9) *オリンピック選考大会
- ワールドカップ国内選考(2019.11)
→ワールドカップ(2020.2) *オリンピック選考大会



実施内容

◆スケジュール

年度(月)	平成27年度(2015)			平成28年度(2016)												平成29年度(2017)														
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
飛込み練習場整備計画		9月補正 地質調査設計費 土地造成費予算要求		建築課設計	契約	調査																								
				地質調査																										
				建築課設計	契約	実施設計																								
				設計	契約	設計																								
				土地造成設計																										

H27. 9月補正対応

- 練習場建設に向けた地質調査委託料 (2,224千円)
- 練習場建設についての実施設計委託料 (5,085千円)
- 敷地造成工事に係る実施設計委託料 (2,286千円)

H28(予定)

- 土地造成工事(4月～8月) (25,000千円) *
- 建築工事(9月～H29. 8月) (78,382千円) *

※スポーツ器具等は含まれません。



趣旨

学校の組織力の強化を図り、教材等を充実することで、教員の協力体制や指導方法の改善を促し、全国学力・学習状況調査結果から見られる中学校の学力課題（思考力等の育成）の改善を図る。

これまでの取組

学校経営力の向上

- ①全ての学校が学校経営計画を作成するのとあわせて、学校経営アドバイザーが各校を個別に訪問支援をする

学力定着状況の把握

- ①全国学力・学習状況調査（小6、中3）
- ②高知県学力定着状況調査（小4、小5、中1、中2）

授業の質・教科専門力の向上

①算数・数学対策

- ・単元テスト（小1～中3）の配信
- ・算数・数学シート（小4～中3）の作成・活用
- ・過去問題集の作成・活用
- ・思考力問題集の作成・活用
- ・授業改善プランに基づく支援訪問の実施

③理科対策

- ・理科思考力問題集（小5～中3）の作成・活用
- ・理科の中核教員（CST）の育成

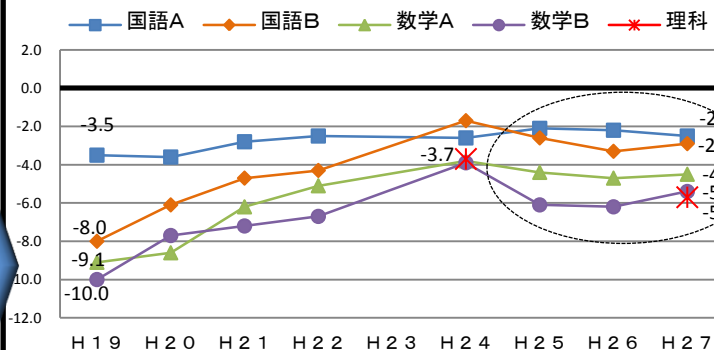
②国語対策

- ・国語学習シート（小1～中3）の作成・活用
- ・課題克服指導資料集（小・中）の作成・活用
- ・授業改善プランに基づく支援訪問の実施

④英語対策

- ・英語ライティングシートの作成・活用
- ・授業改善プランに基づく支援訪問の実施

高知県の中学校の学力の状況



・H24年度以降は改善が足踏み状態に留まり、本年度においてもこの踊り場を脱出できていない。
 ・特に、数学については $\Delta 4.5 \sim \Delta 5.4$ ポイントにあり、全国平均との開きがまだ大きい。
 ・理科においてもH24年度の $\Delta 3.7$ ポイントから $\Delta 5.7$ ポイントと全国平均との差が開いている。

課題

- ◆学校の組織力
組織的に学力を向上させるための体制が整っていない学校があること
- ◆教員の指導力
学習シート等の教材の活用は行われてきたが、生徒の思考力等を高めるための授業改善が進んでいない学校があること

今後の対応

【学校の組織力の強化】

□ 市町村教育委員会及び課題の大きい中学校への訪問指導

- 訪問者：教育次長、小中学校課長、教育事務所長、担当
- 訪問時期：10月～11月
- 内容：学力調査結果についての危機感の共有と取組状況の分析及び課題改善策についての意見交換（のちに、学校は具体的な改善策を提出）
- 対象校：高知市15校、高知市外40校（高知市については高知市教委が中心となって訪問）

□ 学校の組織力強化モデル研究事業 新

- 内容：教科の「タテ持ち」等、学校の組織力強化を図るための研究を行う。
・先進校視察、研修会や協議会の実施
- 指定校数：5校（東部1 中部1 西部1 高知市2）
- 指定期間：10月～3月
- ※来年度からは研究校において「タテ持ち」などを本格実施させる

【教員の指導力の向上】

□ 算数・数学単元テストの充実強化 新

<9月補正債務負担 6,380千円>

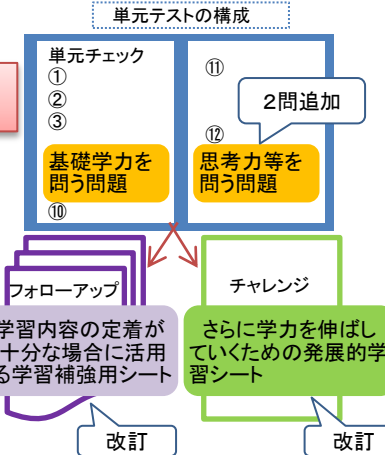
すべての小中学校で実施している単元テストに思考力等を問う問題を組み込み、内容を充実させる

活用方法

- ①単元ごとに基礎学力や思考力等がしっかりと育まれているかをチェックする（単元チェック）
- ②その結果により、補充学習（フォローアップ）や発展学習（チャレンジ）を繰り返し行い、個々の学力の定着と伸長を図る
- ③単元テストの結果を授業改善に生かす

□ 授業改善プランの拡充

- 理科の授業改善プランの作成と指導主事による個別指導
- ※国語、数学、英語については既に授業改善に活用



目指す姿

- ・平成28年度の全国学力・学習状況調査の結果においては、改善の足踏み状態から脱出し、全国平均に近づける。
- ・次期教育振興基本計画の目標年度においては、中学校の学力の結果が全国平均を上回る。